




---



## 【 編集後記 】

稲見昌彦

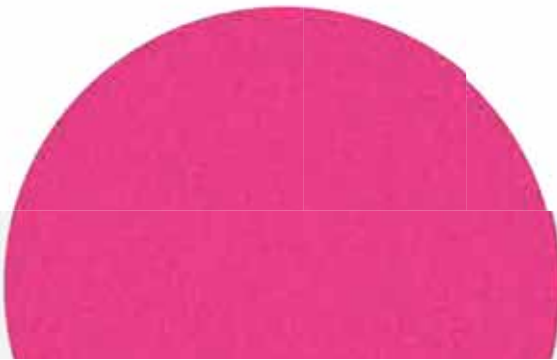


副所長 / 広報広聴・情報支援室室長 / 教授 (身体情報学分野)

---

この度「先端研ソーシャル・レビュー」創刊号の発行に至りましたことを心より嬉しく思います。この重要な節目にあたり、ご支援とご尽力を賜りましたすべての方々には深く感謝申し上げます。

これまで、先端研は「RCAST News」と「リサーチブック」の2つの紙メディアを通じて、最先端の研究情報を発信してまいりました。2023年度より、私が先端研広報・情報室の室長を務めることになり、チームと共に「広報戦略2024」を策定しました。この戦略の一環として、部署名を「広報広聴・情報支援室」へと変更しました。これは、広報展開への希望を収集する広聴活動の重要性と、その活動を基にした広報コンテンツの構築を重視するためです。また、新たな役割として「広報広聴マネージャー」を設け、各研究室の広報・広聴活動を支援する体制を整えました。

私たちは、魅力的な広報コンテンツを外部に発信し、その制作方法を広報広聴マネージャーと共有することで、さらに先端研の活動を広く知っていただくことを目指しています。加えて、新たなコンテンツ展開として、紙媒体、オンライン媒体、イベントの3つの形式を継続しつつ、オンライン媒体では異分野の研究者によるクロストークを公開し、「いつでもキャンパス公開」を準備中です。駒場リサーチキャンパス公開にも新たな取り組みを進めており、これらはすべて広報広聴マネージャーとの密接な連携のもとで実施しています。



この「先端研ソーシャル・レビュー」は、先端研の活動を集し、ビジュアルに注力した雑誌として、先端研の構成員だけでなく、共同研究先や学生にも広く読まれることを目指しています。また、追って発刊予定の「先端研マスターブック」は、パンフレットとリサーチブックの情報を統合し、先端研の活動や研究者の人となり、日常を浮かび上がらせる内容で構成されています。この「先端研マスターブック」は、先端研を代表するものとして、日英併記で提供されます。

媒体間の連携を模索し、記事内容や動画のオンライン展開も計画しています。このような戦略のもと、「先端研ソーシャル・レビュー」0号が誕生しました。今後も、先端研の様々なプロジェクトや研究者にスポットを当てていく予定です。皆様からの忌憚のないご感想をお待ちしております。また、新たに設置された広報広聴・情報支援室の取り組みと、先端研の活動に引き続きご支援とご声援を賜りますようお願い申し上げます。